

第2次安曇野市スポーツ推進計画に係る第2回策定委員会 会議概要

1	委員会名	第2次安曇野市スポーツ推進計画策定委員会
2	日時	平成29年4月28日(金) 午後7時00分から午後8時45分まで
3	会場	安曇野市役所本庁舎3階 共用会議室306
4	出席者	古澤会長、加々美副会長、古屋委員、小池委員、二木委員、鈴木委員、湯本委員、古川委員、太田委員、丸山委員、布山委員、宮澤委員、清水委員、新井委員、一志委員、矢野委員 ※出席委員総数：16人
5	欠席者	内田委員、古幡委員 ※欠席者：2人
6	市側出席者	蓮井生涯学習課長、米倉スポーツ推進担当係長 スポーツ推進担当 平林主事、藤原主事 株式会社KRC
7	公開・非公開の別	公開
8	傍聴人	0人 記者 0人

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 協議事項等
 - ①市民アンケートについて
 - ②今後の日程について
 - ③市民アンケート結果について
 - ④国の第2期スポーツ基本計画について
 - ⑤意見交換
- (4) その他
- (5) 閉会

2 会議事項概要

- (1) 協議事項等
 - ①市民アンケートについて
※事務局より説明 (会議資料1～8ページ)
 - ②今後の日程について
※事務局より説明 (会議資料9ページ)
 - ③市民アンケート結果について
※株式会社KRCより説明 (会議資料A、B)
 - ④国の第2期スポーツ基本計画について
※株式会社KRCより説明 (会議資料C)
 - ⑤アンケート結果に対する意見交換

【以下、意見等】

1 スポーツ団体所属状況・課題について

- 【委員】 体育協会に所属していると回答した人が全体の6.5%だけであるが、実際にはもっといる。体育協会の中でも生涯スポーツサークル連合加入団体の会員は、体育協会に加入していることを役員しか知らず、自覚がないだけなのは。
- 【委員】 広報活動が難しい。総合型スポーツクラブの認知度が低い。現在の堀金だけでなく、人口の多い豊科や穂高にクラブがあれば認知度は上がると考えられる。
- 【KRC】 広報や情報の伝達はすべての世代から課題とされている。

2 人気のあるスポーツについて

- 【委員】 ヨガ等のストレッチに関心を持っている人が多いことが分かった。総合型スポーツクラブでもヨガは人気があり、参加する人が増えている。一人でも簡単に取り組むことができるという気軽さがよいのかもしれない。
- 【事務局】 市主催のスポーツ教室においてもヨガ等ストレッチ系の教室は人気があり、ピラティス教室は定員30名の所、約80名から応募があった。

3 記述回答項目に対する質問

【委員】 記述回答の部分で「指導者に対する不満指摘」が多かったとのことだが、内容としてはどういったものか。

【KRC】 「学校に十分な指導ができる指導者がいない。」「厳しい意見があまりでない。」といった意見があった。

4 障がい者スポーツについて

【委員】 障がい者スポーツの認知度がどれほどあるのか。県の調査によると健常者のスポーツ実施率は40.4%、障がい者は19.2%と障がい者のスポーツ実施率が非常に低い。指導者が足りない、施設の利用に制限があるなど、障壁があるためである。障がい者スポーツへの理解を深めていてもらいたい。

【事務局】 今回の調査では、障がい者へアンケートを取るというよりは、健常者が障がい者スポーツをどのくらい認識しているのかを知りたかった。スポーツ推進計画の検討課題の中に入れながら、何らかの形で提言したい。

【KRC】 国の第2次スポーツ基本計画では障がい者スポーツに関しても言及があるが、障がい者スポーツ観戦者を4.7%から20%まで引き上げることを目標とするなどとしている。今回の計画でも現状を調査したうえで何らかの提案をしていきたい。

5 スポーツ活動の実施・継続、スポーツ実施率の向上にむけての課題について

【会長】 最近では県体育協会に雪合戦やスポーツチャンバラの団体が加入するなど、新しいスポーツが次々と生まれ、取り組まれている。また先の北信越国体では馬術競技やカヌー競技が安曇野で行われた。こういった新しいスポーツやマイナーなスポーツに触れる機会はあまりないので、そういう機会をもっと作れるようになると良い。

【事務局】 スポーツ実施率については、全国平均と比較すると30代、50代女性のスポーツ実施率が非常に低い。母親がスポーツをしなければ、その子どもがスポーツに取り組む機会も少なくなると考えられる。子育て世代が子どもと一緒にスポーツに取り組める機会があれば、実施率はよくなるのではないかと。以上一つの意見として述べておきたい。

【委員】 指導者をどうやって育てるかが課題である。サークルをまとめる指導者や世話人がしっかりしていればうまく活動を続けていくことができるが、そうでないとだんだんと活動が縮小してしまう。それは指導者の質にかかっていると感じる。

【委員】 県外に住んでいた経験があるが、そこでは屋内施設がもう少し多くあり一年中できた。また、初心者が気軽に体験できるような機会がもっと多くあった。そういった部分が課題であると思う。さらに、長野県では指導者側が保護者からの意見や指摘・クレームを怖がり、活動が萎縮してしまうといった話を聞く。そういった点でも指導者の育成・援助が課題であると思う。

6 今後の方向性について

【委員】 今回のアンケート結果を受け、誰がどのようにいつまでに何をしていくのか。

【会長】 アンケートの結果を踏まえ、委員の皆様から様々なご意見をいただいた。いただいた貴重な意見を一つでも二つでも反映し、一つのモデルケースができればよいと考えている。文章だけ作るのではなく、具体的に行動を起こすきっかけとなるようなものを皆さんの力を借りて、今後の会議で作っていききたい。

【事務局】 スポーツ実施率が第1次スポーツ振興計画時の目標を達成できていない。新たな数値目標を設定し、新たな指針を作っていく。

【委員】 今回のアンケート結果の中には、新体育館が完成することによって改善される項目もいくつかあると思う。そのため、今回の結果を新体育館の運営にも反映してほしい。

7 安曇野市スポーツ推進計画における「スポーツ」や「スポーツ実施率」のとらえ方について

【委員】 レジャー的要素があるスポーツをスポーツとするのか。

【KRC】 どこまでスポーツに含めるかは個人によって判断が分かれるため、何をもってしてスポーツ実施とするか定義を決めることは難しい。(ボウリング等のレジャー的な要素が含まれているものや軽いウォーキング等をスポーツに含めるのかどうか。) スポーツ推進計画を立てる中でも、スポーツを実施して何を目標にするのか、どこに重点を置くのがポイントになってくるのではないかと。サイクリング、ワンバウンドふらばーるバレエ、ストレッチ体操等の選択肢にない回答もいくつかあった。国の調査でも何を持ってスポーツとするかは明確ではない。

【委員】 今回のアンケートでは、「する」スポーツにしか視点が当てられていないが、国の目標には「する・見る・支える」と掲げられており、例えば子や孫を送迎して、見守ってくれている保護者や松本山雅を観て応援している人は「見る」スポーツに参加していると言えるのではないかと。そうするとスポーツに関わっている人はもっと多いととらえることができるのではないかと。「する」スポーツだけを増やしていこうとしても限界がある。

【委員】 成人のスポーツ実施率は「週一回以上スポーツを行っているか」どうかで測っているが、スポーツ指導に関わっている自分でも、年間で平均して週一回日常活動の他にスポーツをやっているかというと考えてしまう部分であり、ハードルが高い。通勤で1時間歩く場合もスポーツに入ると考えるなど、もっとゆるく考えることもできるのではないかと。

【事務局】 スポーツ実施率については、全国の調査と比較するため、同じ基準で行った。ただ、高齢者の健康維持のための体操等の活動がスポーツに含まれるのか、現状ではあいまいな部分である。国の調査等を精査し、方法についても検討する必要がある。

【会長】 今までのとらえ方とは違い、安曇野市の考えは「こう」であると、新たに投げかけてみるのも良いかもしれない。

(2) その他

①出席謝礼支払予定日について

②次回会議日程について

【会議終了】